地域とくらし

ワクワク農村未来プランの推進

「ワクワク農村未来プラン」とは、まず一つは、自分たちが住む集落の10年後・20年後の未来を住民みんなで考えることです。もう一つは、その中で出てきた地域のいい所や魅力を磨いたり、活かしたりすることで、地域外の人たちも巻き込みながら、集落に関心を持つ人を増やしていくなど、次世代につなぐ「ワクワク」する取組を住民みんなで進めていくことです。

少子高齢化が進む中、「子どもが少ない」「村の担い手が心配だ」「空き家が増えた」など、未来を心配される声が多く聞かれる一方で、美しい町並みと景観、豊かな食を育む農業の都、自然や文化に恵まれ、メディアの注目を集めるおしゃれなまちであると丹波篠山を評価して移住される方も増えています。住民の皆さんが、丹波篠山は幸せなところだと今一度実感し、村として前向きになって「集落を未来につなぐ」取組を続けていく、というのが「ワクワク農村未来プラン」がめざすところです。

丹波篠山市では、地域課題の解決に向けたこの「ワクワク農村未来プラン」の取組を進め、若い世代をはじめ多くの方が丹波篠山の「とりこ」になるほど、魅力ある住みよいまちづくりを進めていきます。

▲ 後川地区のワクワクする取組

担当部署：企画総務部創造都市課、市民生活部地域振興課

関係人口の取組

これまでから丹波篠山市のファン制度としてあった「ふるさと応援団」を、積極的に集落と関わりたい、応援したいという方を対象に、集落ごとに登録していただく仕組みにしました。また、丹波篠山市役所内に「丹波篠山つながり案内所」を設置（写真）し、「ふるさと応援団」の皆さんが市内で活躍していただけるよう、市内の地域や団体との「つながり」を案内しています。

具体的には、祭りのおみこしのかつぎ手不足や農作業の支援、また、「ワクワク農村」の取組など、地域が抱えるそれぞれの課題に対して、体験、応援したい市外の方（関係人口）を直接、具体的につないでいます。

また、地域課題の解決に向けた中長期的な取組の一つとして、国が進める二地域居住の促進にも取り組みます。二地域居住者が、丹波篠山市の地域資源に触れ、地域との関係性や参画が段階的に深まり、地域の関係人口となることで、「第二のふるさとづくり」を進めていきます。

担当部署：企画総務部創造都市課

地域とくらし

ふるさと丹波篠山に住もう帰ろう運動

丹波篠山市では、「ふるさと丹波篠山に住もう帰ろう」のテーマのもと、日本一のふるさとをめざして、若者の定着、Uターン、Iターン等のための環境づくりを積極的に進めてきました。

ふるさと丹波篠山に住もう帰ろう運動は、人口減少が進むと、①空き家の増加、②利用者減に伴う市民サービスの縮小、③自治会の機能停止など安心して暮らせなくなります。そうならないよう、行政・住民ともに協力して移住・定住を進めていく運動です。また、丹波篠山暮らし案内所を設置し、①移住希望者の相談、②地域住民や所有者からの空き家等に関する相談などに対応しており、空き家も有効活用しながら人口減少対策にも取り組んでいます。

ただ、ふるさと丹波篠山に住もう帰ろう運動の開始から10年以上が経過し、ふるさと丹波篠山に住もう帰ろう運動が市民の間で浸透してきましたが、若年層により親しみを持っていただくため、令和7年度からキャッチフレーズを「たんばささやま　暮らしのとりこ」に変更し、農村回帰の流れを確実なものにするための取組を引き続き進めていきます。

▲ 丸山地区の農村景観

担当部署：企画総務部創造都市課

定住促進と空き家活用

丹波篠山暮らし案内所の移住相談件数は、コロナ前の令和元年度は336件で、令和3年度は947件、令和4年度は924件、令和5年度は901件と約3倍となっており、これまでにもまして移住先として丹波篠山市が注目されています。その結果、空き家バンクの登録数や活用実績において全国的にも高評価を得ています。

▲ 空き家を改修し移住されたご家族

令和6年の神戸新聞社による「兵庫県内で田舎暮らしするとしたらどの市町に住むか」というアンケートでは1位、令和7年2月発行の宝島社の田舎暮らしの本「住みたい田舎ベストランキング」では全国11位に選ばれるなど、今では、丹波篠山市は、美しいまちなみと景観、農都、自然や文化に恵まれて、おしゃれなまちとして人気が集まってきています。

定住促進と空き家活用の具体的な取組としては、若者定住や空き家改修といった住宅にかかる補助金のほか、まずは丹波篠山を知っていただくことからも、JR西日本との共同プロジェクト「おためし暮らし」や丹波篠山暮らし案内所による「お試し住宅」での滞在体験も引き続き行っていきます。

担当部署：企画総務部創造都市課

地域とくらし

篠山イノベーターズスクール

▲ 令和7年3月22日に開催したスクール修了式の様子

神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボで開講している「篠山イノベーターズスクール」は、市内外の方を対象に、農村で実現したい暮らしのために、起業や継業を軸として、そのノウハウや手法を学ぶ1年間の講座です。

「セオリー」は、神戸大学を中心とする大学教授などから、「ノウハウ」は、さまざまな起業家から、「ネットワーク」は、コーディネーターから得られます。また、起業の際には、専門家の助言、ファンディング、丹波篠山市内でのコワーキングオフィスやインキュベートオフィスなどの橋渡しができるのも「篠山イノベーターズスクール」の特徴です。

平成28年の開講以来、10期生が終了し、延べ268人が受講しました。このうち、58人が起業・継業（市内39人）、27人が新事業創出（市内15人）をしています。地方創生の先駆的プロジェクトとして取り組んできたこの仕組みは、地方都市の先進事例として注目を集めています。

担当部署：企画総務部創造都市課

地域おこし協力隊

平成26年度から制度を開始した地域おこし協力隊は、地域での起業を目指す「起業支援型」と地域資源を活用して研究を深める学生を対象とした「半学半域型」、市の重要施策に取り組む「テーマ型」の3種類の隊員が活動しています。現在15名が在籍しており、任期終了後も8割以上の方が市内での活動を続けています。

協力隊員のサポート体制も充実しており、活動や生活での悩みごとや相談は、コーディネーターやカウンターパート等に頼ることができます。また、隊員同士の交流がとても多く、協力して市を盛り上げる気持ちが大きいため、仲間と支え合いながら活動を進めています。

丹波篠山市では、地域の課題解決のため、この地域おこし協力隊制度を積極的に活用し、地域の活力を呼び起こしながら、隊員の定住・定着をはかり、地域力の維持・強化につなげています。

▲ 地域おこし協力隊（起業支援型・半学半域型）

担当部署：企画総務部創造都市課

地域とくらし

丹波篠山ロマン街道

丹波篠山市には、先人から受け継ぎ、大切に守り育ててきた豊かな食文化をはじめ、人々の暮らしが息づく歴史的なまちなみや田園、里山、祭礼など、魅力的な資源があふれています。

こうした地域資源を紹介し、地域への青着と誇りを醸成するため、自然環境をテーマにした「さくら街道」「紅葉街道」「丹波篠山の生きものたち」、歴史・文化をテーマにした「源義経の道」「戦国乱世の道」「祭礼の道」、歴史的集落景観や美しい田園風景をテーマにした「町並み風景街道」を冊子にまとめてきました。

令和7年度は、丹波篠山国際博の取組の一つとして、バスツアー、サイクリング、まち歩きなどによる「丹波篠山ロマン街道巡り」を実施します。

▲ 各地の魅力資源をガイドしながら案内紹介します

担当部署：まちづくり部地域計画課

河合雅雄先生の顕彰

世界のサル博士として、また、名誉市民として活躍された河合雅雄（かわい・まさを）先生のご功績を称え、河合先生に残していただいた自然保護や野生動物との共生、歴史文化を生かすまちづくりなどの教えを後世に語り継ぐため、令和6年4月、丹波篠山市民センター図書コーナー内に丹波篠山市名誉市民河合雅雄顕彰室「万兎（マト）の部屋」を設置（写真）しました。

「万兎の部屋」では、河合先生が残された数々の著書やご功績、愛用品の展示、河合先生の理念が息づく市の取組や施策などを紹介しています。市民の皆さんや市内の子どもたちが郷土に誇りを持つとともに河合先生を知る機会を提供します。

担当部署：企画総務部市長公室

地域とくらし

多文化交流サロン

近年、丹波篠山市の外国人市民の増加と多国籍化に伴い、新たな文化や交流を生む一方で、文化や生活習慣の違いから地域社会での生活上の問題も生じています。

こうした状況を踏まえ、丹波篠山市では、外国人市民の生活上の悩みや相談、国籍等の違う人同士が交流できる場として「多文化交流サロン」を開設し、国籍や民族、生活習慣など文化的な違いをお互いに理解し、誰もが安心して住みやすい共生のまちづくりに取り組んでいます。

令和6年10月には、外国人相談窓口を設置したほか、市のホームページに多言語と「やさしい日本語」の外国人向けサイトを開設。また、交流イベントとしてデカンショ祭で浴衣の着付け体験と踊り子連に参加しデカンショ踊りを楽しんでいただきました。

▲ 多文化交流サロン「ゆかたDEデカンショ祭」に参加された外国人市民の皆さん

担当部署：市民生活部地域振興課

パートナーシップ宣誓制度

「パートナーシップ宣誓制度」とは、互いを人生のパートナーとして、日常生活において相互に協力し合うことを約束した一方又は双方が性的マイノリティ（性的少数者、セクシャルマイノリティ）である二人に対して、市がパートナーシップ宣誓書受領証の交付を行うもので、丹波篠山市においては、令和5年4月から「パートナーシップ宣誓制度」を開始しています。

2023年 4月 1日
「パートナーシップ宣誓制度」
導入のまち
丹波篠山市

近年、性的マイノリティについて、社会的関心が高まってきていますが、依然として悩みや生きづらさを感じている当事者が少なくありません。結婚制度のような法的な効力を有するものではありませんが、「パートナーシップ宣誓制度」を導入することにより、市民一人ひとりの人権と個性を尊重し、性的マイノリティの方への社会的理解が広がり、性の多様性を認め合い、お互いの人権を尊重し合う社会の実現をめざしています。

担当部署：市民生活部人権推進課

地域とくらし

安定ヨウ素剤配布事業

安定ヨウ素剤は、原子力発電所で事故が起きたときに出る放射線ヨウ素の体内への取り込みを抑制し、甲状腺がんを予防する働きがあります。丹波篠山市では、福井県高浜町にある「高浜原子力発電所」の半径50km圏内にあることから、原子力防災の一環として、平成27年度から、希望する市民すべてに無償で安定ヨウ素剤を配布しています。

安定ヨウ素剤は、特に子どもや若年層に効果があるとされているため、令和5年12月からは、約10カ月児を対象とした乳児健康相談での説明を行い、多くの乳幼児や保護者への配布が進んでいます。

UPZ（原子力施設から半径30km）圏外の自治体において、安定ヨウ素剤の事前配布を行っているのは全国的にも珍しく、先進的な取組となっています。

▲ 平成27年度の安定ヨウ素剤配布の様子

担当部署：市民生活部市民安全課

手話施策の推進

全国9例目の「丹波篠山市みんなの手話言語条例」（平成26年12月制定）に基づく「手話施策推進方針」を策定しています。この方針に基づいて、手話の出前講座や手話言語国際デーでの啓発活動など、さまざまな手話施策の推進に取り組んでいます。また、「兵庫・丹波篠山国際とっておきの音楽祭」においては、手話パフォーマンスステージ（写真）を設け、手話歌などの普及啓発に取り組んでいます。

「丹波篠山市みんなの手話言語条例」を制定してから10年を迎え、手話が言語であることを理解し、手話を学び、手話で意志疎通ができ、手話の使いやすい環境づくりを進め、すべての人にとってこころ豊かな住みよいまちをめざしています。

担当部署：保健福祉部社会福祉課

転入おもてなし事業

丹波篠山市では、転入された世帯に歓迎の気持ちを表すため、市長からのウエルカムメッセージをお渡しするとともに、市の魅力を伝えるため丹波篠山産のお米とお茶のセットをお渡ししています。

また、市町村ごとに異なるゴミの分別方法について説明し、見本として各種ゴミ袋を１枚ずつセットにしてお渡ししています。

担当部署：市民生活部市民課

食と健康

食育ー食生活改善促進「いずみ会」の活動

「丹波篠山市いずみ会（食生活改善推進員）」は、「私達の健康は私たちの手で」を合言葉に、親子の食育教室、男性の料理教室、高齢者のための食育教室、生活習慣病予防教室、丹波篠山の食文化の継承、学校や地域への食育活動、各地域の行事への参加、「私のとっておきレシピ集」の発行といった食生活改善推進活動を通じて、家族や地域の「食」から始まる健康づくりに貢献されています。現在、市内4ブロック16グループ、116人が活動中です。

食を取り巻く環境は日々変わってきていますが、丹波篠山市（市栄養士）と協働して、「朝食の大切さ」「郷土料理の伝承」「フレイル予防」など、時代に応じた内容を地域に広めていただいています。

健康づくりのためには「食」はとても大切な要素です。「いずみ会」では、これからも仲間を増やし、「いずみ会」の輪を広めながら、地域の食の大切さを伝えていっていただきます。

◀ 男の料理教室。市いずみ会の指導のもと男性もがんばっています！

担当部署：保健福祉部健康課

食育ーヘルシークッキング教室

▲ 「ヘルシークッキング教室（子育て編）」丹波篠山の郷土料理にチャレンジ！

ヘルシークッキング教室（子育て編、男性初心者編）は、テーマに応じて栄養士が講話と調理実習を行います。食の大切さや郷土料理、健康づくりのための食事づくりを普及啓発しています。また、保健師や歯科衛生士との連携もあり、さまざまな講話もあります。

「子育て編」は4回シリーズで、生活リズムは朝食から、美味しさの基本「さしすせそ」、上手に使おう「ストック食品」、丹波篠山の郷土食を学ぶなど。「男性高齢者編」も4回シリーズで、健康を守る食生活の基本「三つのお皿…」、朝ご飯でエネルギーチャージ、シニアはメタボよりフレイル予防、丹波篠山の郷土料理にチャレンジなどをテーマにしています。

食育を、子どもから大人まで幅広い世代に広がるように啓発し、生きるうえで大切な「食」から、健康づくりにつながるように食育を推進していきます。

担当部署：保健福祉部健康課

食と健康

郷土味学講座

▲ 講師からの説明を熱心に聞く受講生の皆さん

丹波篠山市では、「丹波篠山の豊かな食材でつなぐ未来。丹波篠山の味を創り出そう。丹波篠山の味を伝えよう」をテーマに、市民の方を対象に郷土味学講座を開催し、丹波篠山の食材を活用し、郷土料理をはじめとする豊かな食文化を伝承・創造する人材を育てています。また、郷土料理レシピ集「よろしゅうおあがり（Ⅰ・Ⅱ）」を活用し、若い世代への積極的な普及・啓発を進めているところです。令和7年度は、丹波篠山国際博開催記念事業として、市外の方も受講できますので、ぜひ、ご参加ください。

担当部署：市民生活部中央公民館

かぞくdeおいしんぼクッキング

かぞくdeおいしんぼクッキングは、「作ってみよう！食べてみよう！」をテーマに、家族がクッキングを通して料理の楽しさ、食事の大切さを学び、子育て世代の健全な食生活の推進と家庭の食育力を高めることを目的に実施しています。「学校給食編」「お料理大好き編」「スイーツ編」「カフェ編」「匠編」などを実施し、ご応募が多く抽選となるほど大変人気のある料理講座です。「学校給食編」では、全国学校給食甲子園で優勝した学校給食を調理している栄養士や調理師、調理員が講師となるほか、市内で実際にお店をされている方や、料理に携われている方を講師としてお招きしています。

担当部署：市民生活部中央公民館

いきいきデカボー体操「お試しクラブ」

丹波篠山市では、いつまでも地域で元気に楽しく自立した生活を送っていただけるよう、毎週1回（金曜日）、おもりを使った健康体操（いきいきデカボー体操）を実施しています。

参加されている方は、自らの健康づくりのため、筋力アップのため、自治会主体の「いきいき倶楽部」立ち上げのためなど、理由はさまざまですが、楽しく集えることも魅力のひとつです。体操の前に健康づくりなどのミニ講座も行っています。

「いきいきデカボー体操」は、誰でも手軽に楽しみながらできる体操です。この輪が市内全域に広がるよう、今後ますます啓発をしていきます。現在、市内83カ所の地域（いきいき倶楽部）で「デカボー体操」を楽しんでいただいています。

▲ 毎週1回のデカボー体操でいつまでもいきいきと健康に！

担当部署：保健福祉部健康課

子育ていちばん

ふるさと教育

丹波篠山では、黒豆や丹波焼、高城山の歴史など、各学校の地域素材を活かした「ふるさと教育年間計画」に基づき、児童生徒と地域の人々とのふれあいを通して、伝統、文化、自然、産業、食文化などについて学び、ふるさとへの誇りと愛着を育む「ふるさと教育」に取り組んでいます。

例えば篠山小学校では、児童がふるさと学習として篠山城の歴史について調べ、その魅力を児童自らがガイドとなって発表するという教科等横断的な探究学習に取り組んでいます。篠山小学校児童による「お城ガイド」（写真）により、篠山城の魅力について伝えるとともに、子どもたちが自ら考え主体的にふるさとに関わろうとする力も育むことができます。

担当部署：学校教育部教育研究所

子育て一番「My助産師制度」

▲ My助産師が健やかな子育てを支援します

丹波篠山市が取り組んでいる「My助産師制度」は、妊婦に寄り添い、心のこもった産前産後ケアを行う「全国初」の取組です。

MY助産師とは、その妊婦を担当する助産師で、妊娠期の悩みや不安に寄り添い、妊婦を継続的にサポートすることで健やかな妊娠、出産、育児につなげることを目的に実施しています。

具体的には、妊産婦の実態把握、相談支援、赤ちゃんを迎えるバースサロンの実施、産後ママのサポート事業を実施します。また、産後ケアについては、産科医療機関や助産所において、出産後の母の体のケアや休養の確保、授乳相談、育児相談などを行い、赤ちゃんとの生活がスムーズに送れるように支援します。

担当部署：保健福祉部健康課

子育ていちばん

日本一おいしい丹波篠山の給食

▲ 全国学校給食甲子園で日本一に輝いたメニュー

丹波篠山市では、地元野菜生産団体等の協力を得ながら、給食に地元野菜をできるだけ取り入れ、また、丹波篠山の特産物を活用していく中で、子どもたちがふるさとを愛し誇りに思うことのできる給食を提供しています。

主食のコシヒカリには、丹波篠山市の豊かな土と水を美しく保ち、自然環境にも配慮しながら栽培された、環境や生きものにやさしい「農都のめぐみ米」を年間を通じて使用するほか、令和5年度の市のオーガニックビレッジ宣言を受け、地元産の有機栽培野菜もできるだけ取り入れ、子どもたちが自然環境や生きものとの共存、循環型社会について学ぶ機会も提供しています。

丹波篠山市の給食を「日本一おいしい」と称しているのは、全国学校給食甲子園で優勝や優秀賞をいただいた経験と、昔から栄養価の高い地元野菜や黒豆などの特産物を取入れたさまざまなこだわりのある献立を提供しているからです。

担当部署：学校教育部学校給食センター

毎月10日は丹波篠山だけ図書館の日

丹波篠山市立中央図書館は、毎月10日（月曜休館日を除く）を「丹波篠山だけ図書館の日」と定め、館内にBGMを流し、図書館司書によるおはなし会や紙芝居、エプロンシアター、市民によるミニコンサート等のイベントを開催しています。

普段は静かな図書館が、10日だけはおしゃべりOKで、にぎやかな空間に様変わりする図書館の雰囲気は、利用者からも好評を得ています。

館内BGMや会話を楽しむ図書館は近年増えつつありますが、丹波篠山市は、「図書館では静かに」というイメージを払拭しようと、平成27年から毎月継続して実施しています。

▲「おかちまちカルテット」の皆さんによる演奏会

担当部署：社会教育部中央図書館

農都と環境

日本農業遺産の推進

「日本農業遺産」とは、社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承されてきた独自性のある伝統的な農林水産業と、それに密接に関わって育まれた文化、景観、農業、生物多様性などが相互に関連して一体となった、将来に受け継がれるべき重要な伝統的農林水産業を営む地域（農林水産業システム）を農林水産大臣が認定するもので、令和7年時点で国内28地区（兵庫県内では5地区）が認定されています。

丹波篠山市においては、丹波篠山の黒大豆栽培が「300年も前から何世代にもわたり独自の伝統技術の中で培われ、将来に向けて受け継がれるべき農業システムである」として、令和3年、日本農業遺産に認定されました。栽培技術だけでなく、集落での助け合い、灰小屋のある農村景観、ため池・水路などの生物多様性も評価されました。

日本農業遺産認定を機に令和4年度に創設した「日本農業遺産を生かしたまちづくり事業補助制度」は、子どもたちによる地域の農産物を使った調理実習や黒大豆の栽培実習、黒大豆を使った新商品開発、灰小屋の修復などに活用いただいています。

▲ 刈り取った黒大豆を逆さまにして乾燥させる島立ては、市内のいたるところで見られる冬の風物詩

担当部署：農都創造部農都政策課

日本農業遺産の景観的シンボル・灰小屋

▲ 丹波篠山市はたくさんの灰小屋が現存している全国的にも珍しいまちです

日本農業遺産に認定された黒大豆の伝統的栽培方法の一つである灰小屋（灰屋：はんや）は、化学肥料に頼らない、環境や生きものにやさしい農業の象徴的な施設です。

丹波篠山市内に260棟が残る灰小屋を、農業遺産および丹波篠山らしい景観のシンボル的存在と位置づけ、分布や保存状態を調査しています。また、各農家が修復や活用をする際の支援を補助事業で行っているほか、灰小屋活用を進めるため、令和5年3月にガイドラインを作成しました。

令和6年度には、「灰小屋」を含むフットパス（ありのままの農村を体験できる散歩道）として、1地区で国内外からの来訪者を迎え入れられる環境が整い、丹波篠山国際博の本番、令和7年度には、より多くの地区でフットパスが広がるような取組を進めていきます。

担当部署：農都創造部農都政策課

農都と環境

農都のめぐみ米の推進

▲ 農都のめぐみ米を使った米飯給食

丹波篠山市には、美しい農村景観、きれいな水、多様な生きものなど、自然の恵みがたくさんあります。そして、人が水路やため池をつくり、自然の恵みを丁寧につなぐことで、農業を営んできました。こうした自然と人がつながってできた農村環境を「農都のめぐみ」として大切にし、環境に配慮した米づくりに取り組んでいます。

農薬・化学肥料を5割以上減らし、中干しの延期など生きものへの配慮や自然環境への負荷を低減する水稲栽培は、平成28年度から検討を始め、令和2年度に「農都のめぐみ米」として普及を始めました。令和3年12月には、市内の集落営農組織の協力を得て学校給食のすべてのご飯で「農都のめぐみ米」を使用できるようになりました。

令和6年度には、「農都のめぐみ農産物認証制度」を創設し、市が認証し流通する仕組みもできました。認証を受けた市内の集落営農組織など13団体のお米は、学校給食で提供するほか、市内米穀店や神明ホールディングスの協力を得て販売につながっています。

担当部署：農都創造部農都政策課

オーガニックビレッジ宣言

有機農業は、化学肥料及び農薬を使用しないことや遺伝子組み換え技術を利用しないことを基本に、環境への負荷をできる限り低減した方法による農業です。国では、みどりの食料システム戦略で、2050年までに有機農業面積を25％に拡大する目標を掲げ、その目標に向けて2030年までに、地域ぐるみで有機農業を推進する200地域（オーガニックビレッジ）を創出するとしています。

丹波篠山市では、令和5年4月に「オーガニックビレッジ」を宣言し、地域にあった有機栽培技術の実証や、消費者に対する普及啓発に取り組んでいます。

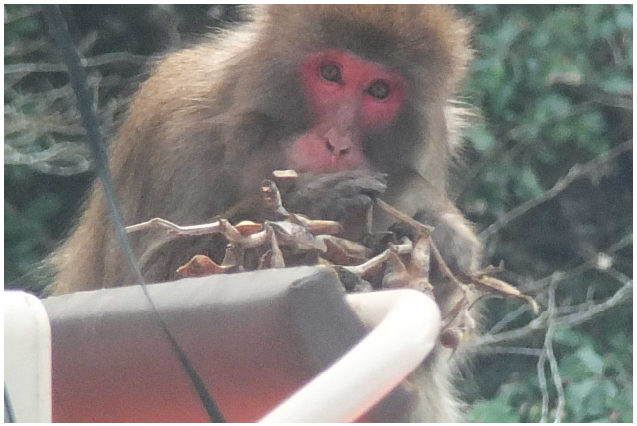
学校給食への有機野菜の提供や食育授業を行うほか、令和7年度からは、黒大豆がらや栗の剪定枝を用いて、作物が吸収した二酸化炭素を炭にして土中に固定するバイオ炭実証試験に取り組み、地球温暖化の防止や土壌改良など丹波篠山市に適応した新たな循環型農業の検討も進めていく予定です。

▲ 市内小学校での有機農家の食育授業

担当部署：農都創造部農都政策課

農都と環境

獣がい対策の推進


▲　黒豆を頬張るニホンザル

獣害が深刻化し、人口減少・高齢化も進化していく日本の農村。今、最前線で獣害に立ち向かっている地域をみんなで支えなければ、次世代に継承したい豊かな「里の恵み」や自然と調和した人の暮らしが失われてしまいます。そこで丹波篠山市では、鳥獣害問題への新たな対応として、多様な人材参画によって地域を元気にする前向きな「獣がい対策」を推進しています。

これまで、丹波篠山市においては、金網柵を460km、サル用電気柵を120kmにわたり施工し、その効果を上げてきました。特に、サルについては、群れの数と頭数を維持するため大人のメスを守りながら、サルメールによる位置情報、モンキードックによる追い払いなど工夫を凝らしています。平成30年には、篠山市（当時）の取組が全国的に認められ、鳥獣対策優良活動表彰で農林水産大臣賞を受賞しました。現在では、①獣害をゼロにする、②生きがい・やりがい・笑顔をプラスする、③獣害対策に取り組む農家の農業所得を向上させる、④獣がい対策への関係人口を増加させるをミッションに、マイナス課題である「獣害」を資源に変えて、地域を活性化していく新しい「獣がい対策」を丹波篠山モデルとして全国に発信しています。

担当部署：農都創造部森づくり課

農都のまほろば水路

現在、日本の農村の多くの水路が、コンクリートで固められた水路に改修され、メダカやドジョウ、カエル、トンボなど、昔はどこにでもいたはずの多くの生きものが姿を消し始めています。丹波篠山市では、そうした生きもののすみかを守る「農都のまほろば水路」を整備することで、見た目の美しさだけではなく、いのちにぎわう「本物の農村」づくりをめざしています。

「まほろば」とは、古事記の中で歌われた言葉で、「素晴らしいところ」「住みやすい場所」という意味です。自然豊かな田園風景が魅力である丹波篠山おいて、先人が大切に守ってきた「素掘り水路」はまちの宝であり、農村環境維持のため「素掘り水路」のまま残すことが原則です。この水路を未来に引き継げるよう、自然景観や生物多様性に配慮した工法「農都のまほろば水路」を推進。中でも自然に溶け込む穴あきのコンクリート水路「トンボトラフ（ヨシキモデル）」を全国に広めていきます。

▲「トンボトラフ（ヨシキモデル）」。落ち込んだカエルが這い出せ、魚たちも暮らせる生きものに優しい水路です

担当部署：農都創造部農都整備課

農都と環境

ふるさとの森づくり

丹波篠山市では、「ふるさとの森づくり条例」を制定し、この中で森づくり構想を策定しています。「みんがな森と多様な関りをもち、木を使うことで、森林資源を循環させ、健康な森林と共に暮らす未來を目指します」を基本方針に、「木育の推進」「篠山の木を使う」「森の恵みの回復」の3つの方針のもと、積極的な間伐、広葉樹林化、里山の再生をめざすなど、未来へつなぐ森づくりを進めています。

また、森林組合など現行林業に続く新たな「自抜型林業」が注目されており、これに取り組む林業者の支援を行っていきます。

▲ 森の健康診断の様子

担当部署：農都創造部森づくり課

ふるさとの川再生事業

▲ 子どもたちによるじゃこ（小魚）とり

丹波篠山市では、多種多様な生きものが暮らす河川環境を保全・再生し、その魅力を次の世代に引き継いでいくため、平成25年に「ささやまの川・水路づくり指針」を策定しました。「ふるさとの川づくり」は、この指針に沿った取組として、地域や学校、環境創造事業者らと連携して、身近な川を生きものと子どもたちの笑顔あふれる豊かな川に再生させる取組です。

具体的には、河川に設置された落差工などに対する生きものの遡上阻害の解消や、生息域の拡大を目的として魚道等の設置、また石や木材などの自然素材を利用した護岸整備をするなど、生態系や自然環境に配慮した川づくりを行っていくほか、子どもと生きものが共存できる、水辺への親しみを深めることができるなどの体験可能な環境整備にも取り組んでいます。

担当部署：まちづくり部地域整備課

農都と環境

環境市民行動「丹波篠山SDGs」

◀ 市の鳥「ツバメ」。軒先を貸して子育てを見守りましょう

令和5年1月に「ワクワク環境みらい都市宣言」を宣言しました。丹波篠山市がこれからも世界に誇れる魅力的なまちとしてあり続けるためには、自然環境や生きもの、農業、生活環境、景観、地球温暖化問題など、多岐にわたる環境課題に対応し、さらに地域の魅力を高めていく必要があります。「ワクワク環境みらい都市宣言」では、丹波篠山にふさわしい環境がどのようなものか、そのような環境を育み未来に引き継いでいくための心がけやまちづくりの方針などを、市の環境施策の大きな方針として掲げています。環境市民行動「丹波篠山SDGs」は、その「ワクワク環境みらい都市宣言」の実現に向けた市民の心がけや具体的な行動を示したものです。

環境市民行動「丹波篠山SDGs」の具体的な行動例として、「①環境について自ら考える人になります。自ら考える人を育てます」「②自らの消費が環境に与える負荷を考えられる人になります」「③人と生きものが共生できる環境をつくります」「④安心・安全な農産物をつくり、みんなであじわいます」「⑤森・里・川・海　環境のつながりを考えられる人になります」の5つを紹介しています。

担当部署：環境みらい部農村環境課

篠山城跡南堀のハス復活

かつて篠山城跡南堀には一面にハスが咲き誇り、市民や観光客の目を楽しませていましたが、平成18年ごろに突如消滅し、原因は分からないままでした。平成25年、篠山小学校の児童からの要望により市で消滅原因を調査するプロジェクトチームを設置し、復活に向けた取り組みを始めました。調査の結果、ミシシッピアカミミガメの食害を消滅原因と推定し、その駆除に取り組みました。

そして、令和元年７月に約15年ぶりにハスが開花しました。その後も勢いよく広がり、令和5年には南堀全面に広がり、全盛期の景色が完全に復活しています。ハスの開花は東側から西側に徐々に進み、8月上旬からお盆の頃に最盛期を迎えます。午後になると花びらを閉じてしまうので、見たり、カメラに収めたりするのは午前中がおすすめです。

名所復活！
ハスの生育環境を見守りましょう

担当部署：環境みらい部農村環境課

農都と環境

神戸大学との連携

◀ 実践農学入門
稲刈り実習

平成17年に神戸大学農学部と、平成22年に神戸大学全学と地域連携協定を結び、市内全域を「生きた現場」として、大学の研究者、学生への研究フィールドの紹介や活動拠点を提供しています。地域課題の解決と地域の活性化をはかることを目的としており、丹波篠山フィールドステーションを拠点に、研究員が常駐して地域の相談や学生の受け入れ調整を行っています。

地元の農業団体・農家で、農作物の栽培体験や実習を通して地域に定着した学生グループが、自主的に農業ボランティアや地域の課題解決などに取り組み、実践的なプログラムを学んでいます。毎年2月には、市内で活動している学生グループや研究者がその成果や実績を発表する「丹波篠山研究発表会」を開催するほか、丹波篠山をフィールドにした他大学との交流も深めています。

担当部署：企画総務部創造都市課

ため池カード・ダムカード・マンホールカード

丹波篠山市では、農業用ダムやため池が持つ優れた景観や特徴などの魅力をはじめ、米作りに欠かせない「水がめ」としての機能についても関心を持ってもらうために「ため池カード」「ダムカード」を、また、ライフラインの一部である下水道に関心を持ってもらうために「マンホールカード」を作成・配布しています。

市内で対象となる農業用ダム・ため池は、鍔市ダム（火打岩）、八幡谷ダム（川原）、佐仲ダム（小坂）、藤岡ダム（藤岡奥）、黒石ダム（今田町黒石）、奥池（矢代）、五坊谷池（坂本）、鍋塚池（小枕）、田口池（真南条上）の 9カ所、ダムは栗柄ダム（栗柄）、みくまりダム（三熊）の2カ所です。そして、マンホールのデザインは篠山城跡の石垣や松、ササユリをあしらっており、カラーデザインマンホール（写真左）は大正ロマン館前で見ることができます。

各施設の所在地が分かるイラストマップを作成していますので、ぜひ、現地巡りを楽しんでください。

担当部署：農都創造部、まちづくり部、上下水道部

魅力向上

日本遺産に認定

日本遺産は、文化庁が平成27年に創設した制度で、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化や伝統を語るストーリーを認定し、ブランド力を高めることにより、国内外からの誘客につなげようとするものです。丹波篠山市は、国内104のストーリーのうち2つのストーリーが日本遺産に認定されています。1つ目は、平成27年に「丹波篠山デカンショ節－民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶」というストーリーで、日本で第一号となる日本遺産に認定されました。2つ目は、平成29年に「きっと恋する六古窯－日本生まれ日本育ちのやきもの産地」というストーリーで日本遺産に認定されました。

具体的な取組としては、日本遺産の構成文化財の魅力を国内外にPRし、誘客につなげていくほか、毎年２月13日が「日本遺産の日」であることから、毎月13日には、特に日本遺産に関係するイベント等の情報を積極的に発信しています。また、日本遺産の構成文化財を巡る旅行商品（ツアー）の造成も行っているところです。

JAPAN HERITAGE
日本遺産

最近では、日本遺産のまちを巡る観光客も徐々に増えてきており、認定によるブランド力の高まりを感じているほか、市民にとっても、自分たちのまちの生活や歴史、文化、民俗が認められたことで、その誇りや愛着も高まってきています。

担当部署：企画総務部市長公室

ユネスコ創造都市ネットワークに加盟

TAMBASASAYAMA
City of Crafts and Folk Art
Designated UNESCO Creative City

ユネスコ創造都市ネットワークは、世界の350都市が加盟し、文学、映画、音楽、クラフト&フォークアート、デザイン、メディアアート、食文化の7分野のいずれかに加盟しています。日本の加盟都市は、神戸市（デザイン）、名古屋市（デザイン）、金沢市（クラフト＆フォークアート）、札幌市（メディアアート）、鶴岡市（食文化）、浜松市（音楽）、丹波篠山市（クラフト＆フォークアート、平成29年に加盟）、山形市（映画）、旭川市（デザイン）、臼杵市（食文化）、岡山市（文学）の11都市となっています。

最近では、さまざまな工芸作家が市内で工房を開設し、クラフト関連の取組も充実してきており、地域の活性化につながっています。また、令和7年度、丹波篠山国際博の開催年には、ユネスコ創造都市ネットワークに加盟している国内外の都市を招待し、国際会議を開催するなど、分野を越えた国内外の他都市との交流・連携を進めます。

また、創造都市ネットワーク日本の活動では、令和4年度の創造農村部会創設から事務局市として、また「地方都市のリーダー」として、国内の創造都市間の連携を深めています。

担当部署：企画総務部市長公室

魅力向上

重要伝統的建造物群保存地区の取組

◀「篠山地区」の町並み

丹波篠山市には、重要伝統的建造物群保存地区として選定されている地区が2カ所あります。平成16年に選定された「篠山地区」と平成24年に選定された「福住地区」です。

「篠山地区」は全体面積が40.2ha。篠山城跡を中心に西側に武家屋敷群、東側に妻入り商家群が連なり、特徴の異なる歴史的な町並みが一つになって城下町の町並みを今に伝えています。

一方、「福住地区」は全体面積が25.2ha。宿場町として発展した町並みと、街道沿いに並ぶ農村集落の町並みが周囲の田園風景と一体となって、歴史的景観を作り出しています。

現在、「篠山地区」では無電柱化工事により江戸時代のまちの風景を彷彿させるとともに、「福住地区」では古民家を活かした多くの起業で賑わっています。

▲「福住地区」の町並み

担当部署：社会教育部社会教育・文化財課

美しい「景観」の保全と継承

良好な景観は、美しく風格のあるまちの形成と潤いのある豊かな生活環境の創造に不可欠なものです。

篠山城跡を中心とした城下町の佇まい、緑豊かな田園や農村風景、美しい山名になどの景観は、「小京都」と呼ばれるほど美しく、丹波篠山市の誇る財産です。この美しい景観を未来に引き継ぐため、丹波篠山市景観計画や屋外広告物条例を適正に運用し、丹波篠山にふさわしい景観形成を保全・継承していかなければなりません。

具体的には、丹波篠山の歴史的なまちなみを保全するため、景観形成事業を通じて100件以上の建築物や門塀等の修景助成を行ってきました。引き続き、景観資源の保全・活用や景観まち歩きなど、地域住民の主体的な景観まちづくり活動を支援していきます。

担当部署：まちづくり部地域計画課

魅力向上

フィルムコミッションによるロケ誘致

丹波篠山フィルムコミッションとして、映画やテレビ番組、CMなどのロケ誘致・支援を継続して実施しています。丹波篠山市内での撮影を希望される皆さまに、ロケ地の紹介やロケハン同行・許認可申請手続きの支援・フードサービス、宿泊施設の紹介なども行っています。

丹波篠山市は、京都の太秦撮影所から1時間の距離にあって、篠山城跡内での撮影、篠山城大書院での撮影が可能であり、時代劇の撮影が活発に行われています。篠山城跡で撮影が行われた映画「レジェンド＆バタフライ」（写真）では、織田信長が清洲城から美濃攻めへ向かう場面や、桶狭間の戦いから帰還する場面が放映され、ロケ地巡り、聖地巡礼で多くの観光客が訪れています。さらに、テレビの報道番組や旅番組、バラエティー番組などで黒枝豆などの特産物、歴史的なまちなみ、農村景観などを数多く紹介いただき、おしゃれで魅力いっぱいのまち、理想の暮らしが実現できるまちとして紹介されることも多くなってきました。

また、「河合雅雄氏のご兄弟をNHK朝の連続テレビ小説に」と誘致活動を行っています。丹波篠山国際博に合わせたイベントや署名活動を行い、NHK朝の連続テレビ小説によるドラマ化を要望していきます。

担当部署：観光交流部商工観光課

丹波焼・王地山焼の魅力

▲ 約60軒の窯元が作る「丹波焼」

日本六古窯の一つに数えられ、800年以上の歴史を育んできた丹波焼は、全国にその名を誇る丹波篠山市を代表する伝統産業です。また、青磁を中心とした王地山焼があります。江戸時代末期、篠山藩主が王地山の地に築いた藩窯が始まりとされる王地山焼は、一時は廃窯となっていたものの、昭和63年に王地山の麓に王地山陶器所として復興されました。丹波焼、王地山焼ともに、「立杭陶の郷」と「王地山陶器所華工房」を拠点施設として、それぞれの継承と発展に取り組み、ユネスコ創造都市として「伝統産業」の魅力発信しています。

▲ 藩窯が復興された「王地山焼」

最近では、丹波焼や王地山焼を求めて、陶磁器に関心のある人が多く訪れており、特に、外国人の中にも焼物に関心を持っている人は多く、外国人観光客の誘客にもつながっています。丹波焼では、約60の窯元が日々創作活動に取り組まれているほか、王地山焼は、丹波篠山市の指定管理施設「王地山陶器所華工房」で作家が陶芸教室や個展の開催など、伝統工芸文化の継承に取り組まれています。

担当部署：観光交流部商工観光課

魅力向上

丹波篠山市民ミュージカル

丹波篠山市民ミュージカルは、市民が参画するミュージカルとして日本一の質の高さを誇っています。出演者だけでなく、舞台裏スタッフ、表方スタッフなど、さまざまな関係者が、深い愛情と熱意をもって取り組み、脚本、演出、舞台製作などには、一流の方々のご協力を受けながら創り上げています。それだけに、出演する市民も年々レベルアップし、会場を埋め尽くす観客に大きな感動を与えています。

第12弾となる丹波篠山市民ミュージカルは、令和8年2月に開催予定。大阪・関西万博の理念である「一人ひとりが互いの多様性を認め、『いのち輝く未来社会のデザイン』」の実現に寄与するため、これらのテーマに沿う演目（「シンデレラ」を予定）を取り上げ、出演者の創造的な表現を観覧した観客が、いのちが輝く丹波篠山を感じられるようなミュージカルに仕上げていきます。

市民の手づくりによる日本一の市民ミュージカルには、市外の多くの方にも観覧いただいており、ミュージカルを通じて丹波篠山を知っていただき、芸術文化のまち・丹波篠山のファンになっていただくようPRに努めていきます。

▲ 第11弾「ノートル＝ダム・ド・パリ」（令和6年2月）

担当部署：社会教育部田園交響ホール

丹波篠山市展

丹波篠山市展は、市民の創作活動の奨励と芸術文化の振興をはかることを目的として、市内外の美術愛好家から広く芸術作品を公募し、優れた作品を展示し鑑賞する美術展。平成17年度から毎年開催しており、11月中旬の7日間の会期で行っています。市展で募集する部門は、一般部門が絵画（日本画・洋画）、彫刻・工芸、書、写真で、特別部門が盆栽。一般部門の中から、最も優れた作品には「河合賞」が贈られることになっています。

▲ 審査員による作品の講評

令和7年度は、丹波篠山国際博の開催記念事業として、新たにインバウンド向けの企画を計画。日本ならではの文化体験や教室（例えば、茶道、書道、その他伝統芸能など）を開催し、日本文化に触れていただく機会を提供します。

担当部署：社会教育部社会教育・文化財課

丹波篠山映像祭

丹波篠山映像祭は、映像を通して、日常の中にある豊かさに気づき、生きる力、人のつながり、心の豊かさを育むことを目的に開催しています。これまで「生きる」をテーマに秀逸な映像作品を表彰してきましたが、令和7年度は、丹波篠山国際博の開催記念事業として「いまを未来へつなぐ」をテーマに映像作品を募集。未来につなげる丹波篠山の魅力を映像メッセージに乗せて広く全国に発信していきます。

担当部署：社会教育部視聴覚ライブラリー

魅力向上

山城体験イベント

丹波篠山市には、国史跡八上城跡を筆頭に、籾井城や八百里城、金山城など、およそ100カ所以上の山城があり、県下有数の山城数を誇っています。令和2年に放送されたNHK大河ドラマ「麒麟がくる」では、戦国時代初期を舞台に、明智光秀の生涯が描かれており、八上城の城主・波多野秀治も登場するなど、大きな盛り上がりを見せました。

山城ブームが続く中、丹波篠山市では、丹波篠山国際博を契機として、丹波篠山山城ネットワークを通じ、山城を有する地域を中心に「山城」を活かした地域づくりや地域間の連携を深めていくとともに、「山城」を活かして活動をしている地域において、山城体験・見学ツアーなどを実施します。参加者には、特製の「山城カード」の配布も計画しています。

このような取組を進めることにより、市民が丹波篠山の山城を地域の誇りとして、保全や活用を行いながら後世に受け継いでいくようなサイクルが生まれる仕組みを構築していきます。

▲ 山城整備の活動を学ぶ学生

担当部署：社会教育部社会教育・文化財課

桶ット卓球

「桶ット卓球」とは、風呂桶を並べてつくる「桶ネット」で仕切られた卓球台で、風呂桶をラケット代わりにして2人1組でプレーする丹波篠山市発祥のスポーツです。平成22年に、こんだ薬師温泉ぬくもりの郷の活性化策として始まり、翌年には、こんだ薬師温泉で全国初となる「全国桶ット卓球大会」を開催しました。以降、市民をはじめ国内外の方々に愛好いただいている「桶ット卓球」。令和7年度は、丹波篠山国際博の開催記念事業として「桶ット卓球世界大会」を開催し、国内外に向け丹波篠山の魅力を発信していきます。

▲ 2020年に開催した「桶ット卓球世界大会」

担当部署：市民生活部中央公民館

丹波篠山の家

丹波篠山市では、市の分譲地「ハートピア団地」内に、「丹波篠山の家」モデルハウスを建築し、住文化の継承や良好な景観形成、地域産材の活用などについて重点的な普及に努めています。

丹波篠山の気候風土・文化にあった健康的で住みよい住宅の普及をはかり、地域文化の継承や良好な町並みの景観形成に寄与するため、意匠や色彩、材料等の基準（丹波篠山の家認定基準）を定め、この基準に適合する住宅の建築（建築工事費補助：70万円～130万円／件）や普及啓発（普及啓発費補助：実費）にかかる支援を行い、豊かな地域性を持った住まいの創造を推進しています。

担当部署：まちづくり部地域計画課

魅力向上

インバウンドへの対応強化

JR篠山口駅には、外国人の方に気軽に立ち寄っていただくためJNTO（日本政府観光局）認定の観光案内所「観光ステーション」を設置しています。丹波篠山国際博に向けて「Visit Tambasasayama」などのホームページやSNSなどでさらなる周知を行い、より多くの方に立ち寄ってもらえるように取り組んでいます。「観光ステーション」は、3人のスタッフによって、年末年始以外、毎日営業しており、令和5年には日本政府観光局認定のインバウンド案内所として、おもてなしの心が認められ、全国表彰を受けました。

また、市民によるインバウンド対応のガイド「ローカルガイド」の育成を行い、丹波篠山国際博に向けての取組を強化しています。

日本語でのガイドは、篠山城下町地区に「ディスカバーささやまグループ」、福住伝統的建造物群保存地区内に「福住町並み案内人」が組織され、ガイドを希望する人に詳しく案内していただいています。

▲ JR篠山口駅に設置した「観光ステーション」

担当部署：観光交流部商工観光課

8人乗り電気自動車「めぐりーん」の運行

かわいいデザインのグリーンスローモビリティ「めぐり～ん」▶

「めぐりーん」は、令和3年度の実証実験を経て、令和4年10月から本格的に土日、祝日のみ篠山城下町を無料で周遊できるループバスです。車両は８人乗りで、黒豆と黒枝豆をデザインにしたかわいいバス1台が運行しています。

歩いて周ると距離のある篠山城下町を、ゆっくりと楽に周遊できるように、無料の電気自動車を走らせます。河原町にある王地山陶器所から妻入り商家の町並み、武家屋敷が並ぶ御徒士町通りを楽しみながら、篠山城大書院に向かい、王地山陶器所に戻る巡回バスで、1日12便、所要時間は約20分となっています。また、環境にやさしい電気自動車とすることで、CO_2排出削減にも貢献しています。

7月から8月にかけては、復活した篠山城跡の南堀のハスが見頃になりますので、町並みと合わせて南堀全面に広がるピンクのハスの花もお楽しみいただくことができます。

担当部署：観光交流部商工観光課

魅力向上

姉妹都市との国内交流・国際交流

◀ ワラワラ市からの訪問団（記念モニュメントを囲んで）

丹波篠山市では、国内都市との交流として、平成26年度には愛知県犬山市、平成28年度には愛媛県愛南町と姉妹都市提携を締結し、防災、教育、産業、文化などの交流を深め、両市町相互のさらなる発展につなげているところです。この国内交流においては、7月下旬から8月上旬にかけ犬山市、愛南町との小学生交流を実施しています。

また、丹波篠山市は、千葉県館山市、秋田県大館市、岐阜県郡上市、愛媛県愛南町、岐阜県高山市、愛知県犬山市、山形県鶴岡市、山口県萩市、大阪府泉佐野市との間で災害時相互応援協定を締結し、自治体間交流をはじめ市民間交流も行っています。

海外都市との交流では、昭和47年にアメリカ合衆国ワシントン州ワラワラ市と姉妹都市提携を締結しています。国際交流は丹波篠山国際姉妹都市委員会の交流事業として、ワラワラ市との高校生の短期交換留学を実施。10月にはワラワラ市からの高校生を受け入れ、3月には丹波篠山の未来を担う市内高校生をワラワラ市に派遣しています。

担当部署：観光交流部商工観光課

起業支援で地域の活性化

丹波篠山市では、市内産業の振興による地域経済の活性化及び雇用機会の拡大、定住促進や空き家・空き店舗の活用などを目的として、市内で新たに起業される方に対して「起業支援助成事業」を実施しています。助成の内容は、初期投資経費の30％以内で、空き家・空き店舗の活用やUIJターンによる若者の起業、特産品を活用する起業、宿泊施設を開業される起業など、それぞれの要件に応じ最大150万円を助成することとしています。

近年では、年間20件以上の起業支援を行っていますが、起業される方の価値観も変化してきており、「儲ける」よりも「自分らしさ」を求める方が、丹波篠山で起業されています。今後も制度を続けて、市の課題解決とマッチした事業者の起業を応援し、地域のにぎわい創出、地域の活性化につなげていきます。

▲ 移住者らによる起業が進む福住地区

担当部署：観光交流部商工観光課